

富士見縄文推進事業

取組に至る背景・事業の目的

- 平成30年、令和4年と町が高校生を対象に実施したアンケート調査によると、「家族に、将来、富士見町に住み続けることをすすめられたことはあるか」との問いに平成30年は78.3%、令和4年では88%が「何も言われていない」と増加。また、「町に住み続けることをすすめられた」との回答が8.5%から5.6%まで減少した。
- 駅前商店街を中心とした地域住民協働による地域活性化事業を行うことにより多世代の交流を促進し、また地域住民が地元愛や誇りを持ち、地域の魅力向上を図ることを目的とした事業が必要であると考え、商店街を社会的・文化的中心となるように“ハロウィン”と地域資源である“縄文文化”を合わせた“縄文ハロウィン”を考案した。

事業内容

- 縄文フードフェア
町内店舗に募集をかけ、縄文時代に主食にされていたとされる食材(粟・くるみ)を使用したフードの販売と、店舗を複数巡るような仕組みとしてデジタルスタンプラリーを実施
- 町民参加型非接触型コンテンツの作成 (LINE スタンプの発信)
富士見町内の中学校、高校へスタンプ案を募り、また町民にはスタンプの文言を募り、LINE スタンプ作成と販売を実施
- 縄文キッズDAY
縄文土器づくり、弓矢づくり体験イベントの開催
- 縄文ハロウィンイベント
ジャックオーランタン作りや縄文ハロウィンホコ天祭り（商店街を歩行者天国にし、ミニステージや店舗出店、商工会からの出し物によるイベント開催）
- イベント情報の発信、映像の集約
縄文フードフェアの紹介やイベントの開催の告知を発信・また写真・映像で記録し、内容の発信
- 地域住民“縄文”への意識高揚を図る
地域住民に対し“縄文”への意識高揚を図るため、タペストリーとのぼり旗を駅、商店街、町内公共施設等に100本設置



【縄文ハロウィンの様子】

事業効果

- 出店店舗による縄文フードフェアが例年のイベントとして定着してきている。今回はデジタルスタンプラリーを実施することでお客様が店舗を複数行けるきっかけが作れた。
- LINE スタンプは町内の中学生や高校生に協力を仰ぐことで、商工会でやっているイベント等に触れ合うきっかけ作りとなり、富士見町の縄文人“ムサイさん”の知名度も向上してきている。
- 駅前商店が10月は“縄文”をコンセプトとして、新たな顔になってきているおり、商店街の店舗協力の機運が高まった。また子供たちの発表の場やクラスで出店をし、自分たちで盛り上げる楽しさも見つけており、地域住民協働による地域活性化事業になってきている。
- HP から“縄文推進事業”をいつでも閲覧できるようになっており、より効果的な情報発信を行なうことが出来た。商店街や駅町内施設には9月半ばからタペストリーやのぼり旗を設置し、早い段階より“縄文”や“縄文ハロウィン”、“富士見町”に対しての意識づけが図られていた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

イベント事業にLINEやインスタグラム、youtubeを活用し、各種アカウントに触れるきっかけ作り、富士見町に居なくても富士見町を知ってもらえることができた。今後はホコ天祭りを商店街の店舗を中心にしつつも、他団体とも協力して協働事業を行ったり、地元を離れた若者や女性、また今後IターンJターンになるであろう町外の人々にも周知が出来る仕組みを作り、発信しながら地域文化や歴史を紐解き、地域住民が富士見愛や誇りを持って取り組める環境づくりに取り組んでいく。

【選定のポイント】

縄文文化をテーマとした様々なイベントを地域一体となって開催しており、多世代の交流を促進や、地域愛の醸成、地域の魅力向上が期待される。

団体名	富士見町商工会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-62-2373	事業費	4,825,059円
HP	https://fujimi-ts.org/	支援金額	3,705,000円
Mail	fujimi@fujimi-ts.org		